

10月 ^するりに澄む

令和7年度 原山中だより

【第6号】令和7年9月26日発行

分断より連帯 対立より寛容を

校長 遠藤 敏恵



ようやく、朝晩に涼しさを感じられるようになりました。夏休み明けの教室は、エアコンを最大限に稼働しても涼しくならず、生徒の皆さんにも先生方にも、大変な思いをさせてしまいました。そんな環境下でも、9月17日の合唱コンクールに向けて、健気に練習に励み、当日はどの学年も、大宮ソニックシティの大ホールに素晴らしい歌声を響かせてくれました。3年生の『ふるさと』の全体合唱の際には、皆さんの優しい歌声に、自然と涙がこぼれてきて、慌ててカメラで顔を隠しました。「琴線に触れる」という言葉がありますが、まさにあの歌声は、私の心の奥の方にある感情の糸にダイレクトに届いたのだなと思います。運営に携わって下さった多くの皆さん、本当にお疲れ様でした。素敵な合唱コンクールをありがとうございました。また運動部では、24日の陸上競技部を皮切りに、さいたま市中学校新人体育大会が始まりました。10月21日の大会に向けて、原山中駅伝部の練習にも一段と気合が入っています。頑張っている皆さんの健闘を心から祈ります。

先日、ニューヨークの国連本部で開催された第80回国連総会において、日本の石破茂総理大臣が一般討論演説を行いました。その演説の中で総理は、第2次世界大戦後その大きな犠牲への反省のもとに発足された国連が、今、その目標として掲げた、国際社会の平和と安全を守るという役割を果たしているのかと問い、世界唯一の被爆国の首相として、核が脅しに使われている現状を憂い、演説の最後には、「核戦争なき世界」、「核兵器なき世界」の実現を、



分断より連帯、対立より寛容をと思いを述べられました。皆さんには、「この人とは意見が合わないな、苦手だなと思うことがあっても、それはお互いが異なる歴史や文化を背負って生きてきているのだから、とても自然なこと。ただそこで、対立したりその相手を排除しようとしたりするのではなくて、お互いにどうしたらうまくやっていけるかなと考えて欲しい。そういった他とうまくやっていく方法、折り合いの付け方を学ぶのも中学校だ」とお話ししたことがありますが、大人の世界も同じですね。考え方が異なる者同士で、双方が歩み寄る姿勢を示さなければ、平行線のままです。夏休み明けの『さいたま市ストップいじめ！子どもサミット』参加報告では、生徒会長の内田さんが、仲本小、原山小、原山中の3校合同で考えたスローガン「認め合おう 相手も知って 尊重しよう」を発表してくれました。自分たちの課題を真摯に受け止め、解決しようと策を考える皆さんの姿勢は、とても建設的で、頼もしく思います。分断を生まない社会を築いていくためにも、お互いを知り、認め合い、大切にする環境を皆でつくっていきましょう。

